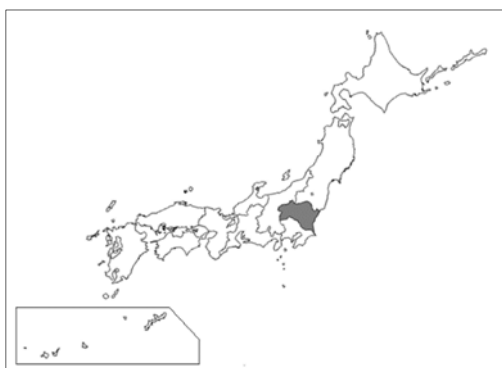


### (3) 北 関 東



北関東地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (    は上方に変更、    は下方に変更)。

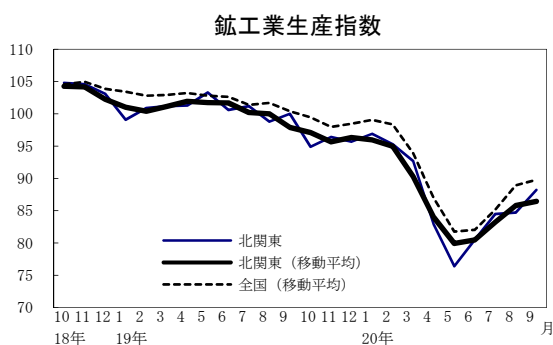
#### 前回からの主要変更点

	前回 (令和2年9月)	今回 (令和2年12月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる	→
鉱工業生産	一部に持ち直しの動きがみられる	持ち直している	↑
個人消費	このところ持ち直している	持ち直している	→
雇用情勢	感染症の影響により、弱い動きとなっている	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	↑

#### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直している。

7－9月期の鉱工業生産は、「輸送機械」が増加したこと、「石油・石炭製品、化学、プラ製品」が増加したこと等により、前期比7.3%増となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4－6 月期	7－9 月期	7月	8月	9月
石油・石炭、化学、プラ製品	20.1	▲10.5	2.8	3.3	3.0	0.8
輸送機械	18.3	▲44.6	52.3	21.3	2.4	10.6
汎・生産・業務用機械	17.1	▲8.4	▲3.6	▲1.6	▲4.4	3.3
食料品・たばこ	12.1	▲2.4	—	0.8	0.2	—
電子デバ、電気・情報通信	11.2	▲8.9	2.1	5.5	▲2.6	4.4
鉱工業	100.0	▲15.8	7.3	5.0	0.2	4.1

- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北関東の最新月は速報値。  
 2. 全国及び北関東の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。  
 3. 北関東は内閣府にて算出。

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
 2. 7－9月期、9月は速報値。速報値において、化学は医薬品を除いたもの、食料品・たばこは公表されていない。  
 3. 業種は内閣府にて分類。

## 2. 個人消費の動向

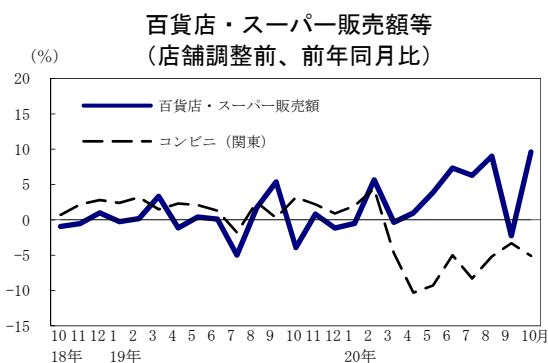
個人消費は持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7-9月期は前期比4.9%増となった。

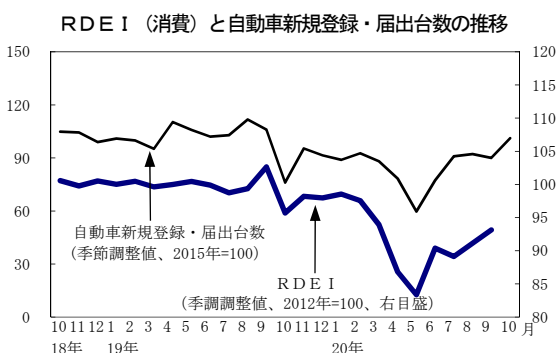
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4-6月期は前年同期比4.1%増、7-9月期は同4.3%増となった。



	2020年7-9月	2020年7月	8月	9月	10月
RDEI (消費*1)	4.9	▲1.4	2.3	2.2	—
百貨店・スーパー(*2)	4.3	6.3	9.0	▲2.2	9.6
コンビニ(*3)	▲5.7	▲8.3	▲5.2	▲3.3	▲5.1
乗用車(*4)	▲14.3	▲11.8	▲18.2	▲13.6	32.0
(季節調整値) (*4)	26.8	17.6	1.4	▲2.3	12.4

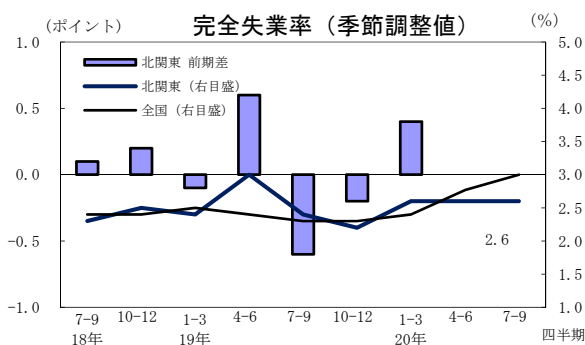
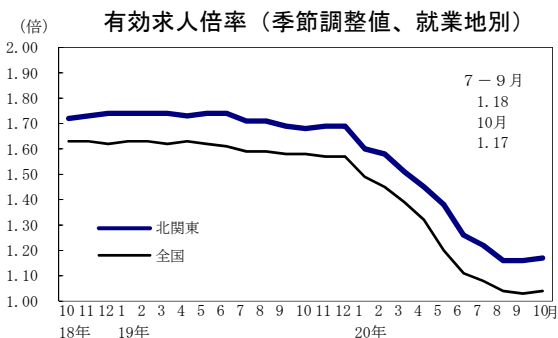
- (備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)  
 2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)  
 百貨店・スーパーは内閣府にて算出。  
 2020年10月は速報値。  
 3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)  
 コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。  
 2020年10月は速報値。  
 4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%)



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期と同水準となっている。



(備考) 内閣府にて算出、季節調整。季節性が認められなかったことから原数値と同じ。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和2年10月調査）景気判断理由の概要

3. 北関東

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

	分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	○	・Go Toキャンペーン等の景気刺激策により、客が動き出したように感じる（ゴルフ練習場）。
		□	・来客数が相変わらず少ない（住宅販売会社）。
		▲	・客の動きもそうだが、地域住民のイベント等が全てなくなり、来客数も減っている（コンビニ）。
		×	・昼も夜も動きが悪く、前年同月比44%の減収である（タクシー）。
	企業 動向 関連	○	・持ち直し感が出てきており、各部門の受注量は微増程度であるものの、やや良くなるとみている（化学工業）。
		▲	・今月から取引解消となった取引先があり、それをカバーできる受注がなかったため、売上が減少している。既存取引先の利益改善もうまくいかず、利益も減少している（不動産業）。
		□	・飲食店経営者の多くが、「来客数は多少伸びてきているが、常連の宴会が入らないので、利益がなかなか上がらない」と話している。自治体や国のキャンペーンによるバックアップは有り難いが、それに来るのは個人客なので、利益の高い宴会にはかなわないようである（広告代理店）。
	雇用 関連	○	・今まで求人を探していた、医療、介護事業所が前年比増加となっている。また、飲食業も国等の支援策、Go To Eatにより増加に転じている（職業安定所）。
		□	・派遣依頼は期間限定の話が多く、極力、社内の人事異動で対応する取引先が多いと感じている（人材派遣会社）。
	その他の特徴 コメント		
先行き	家計 動向 関連	□	・インフルエンザの流行も懸念されるため、外食する人が劇的に増えるとは思えない（一般レストラン）。
		○	・ホテル内飲食施設の再開や、レストラン空き店舗の活用等、新規施設の案件も増えてきている。新型コロナウイルスの影響が、今後どの程度で推移するかの見極めは難しいが、新しい動きは着実に増えていくものと思われる（その他飲食 [給食・レストラン]）。
	企業 動向 関連	□	・最近でも、各地で新型コロナウイルス感染者の増加が散見され、依然、生活者の先行きの消費行動が抑えられるのではないかと警戒感がある。今後、更に廃業者が増えることとみている（経営コンサルタント）。
		○	・自動車のみならず、産業用ロボット、油圧機器等、受注拡大分野が増えてきている（一般機械器具製造業）。
	雇用 関連	○	・新型コロナウイルスの影響が少しずつ緩和されてくるのではないかと（学校 [専門学校]）。
	その他の特徴 コメント		

(D I) 現状・先行き判断D I（北関東）の推移（季節調整値）

